科目ナンバリング	U-LAS05 10004 LJ40						
授業科目名 <英訳>	生態人類学Ⅰ Ecological Anthropology I			担当者所属 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 大山 修一 アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 伊谷 樹一 アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 佐藤 宏樹		
群	人文・社会科学科目群	分野(分類)	地域・文化(基礎)			使用言語	日本語
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義（対面授業科目）
開講年度・開講期	2025・前期	曜時限	火2	配当学年	全回生	対象学生	全学向

[授業の概要・目的]

生態人類学とは，自然環境と人間生活の相互関係を研究する人類学の一分野である。本講義では，担当教員たちの長期にわたるフィールドワークの経験をとおして，アフリカの乾燥疎開林(伊谷担当)，熱帯モンスーン地域の森林（佐藤），サハラ砂漠の南縁であるサヘルの半乾燥地と，熱帯雨林とサバンナの境界域(大山・塩谷担当)という異なった環境における農耕民の生態・社会・文化の動態について論じる。

[到達目標]

人類の生活と生存について，その基盤から考える視点を得る。

[授業計画と内容]

第１回 アフリカの生態資源と人びとの暮らし（伊谷）
第２回 自然に依存した農業（伊谷）
第3回 自然と生業（１）牧畜と狩猟・採集（伊谷）
第4回 自然と生業（２）農耕（伊谷）
第5回 資源の枯渇と保全（伊谷）
第６回 熱帯林を科学する（佐藤）
第7回 熱帯林がもたらす恵み（佐藤）
第8回 森林破壊とその影響（佐藤）
第9回 森林保全と地域開発の両立（佐藤）
第10回 自給農業は貧しいのか(大山)
第11回 自給農業における食と資源利用（大山・塩谷）
第12回 農村開発の現場(大山・塩谷)
第13回 西アフリカ・サヘル地帯の砂漠化（大山）
第14回 住民の在来知識による荒廃地の環境修復（大山）
第15回 フィードバック

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

授業中に課すレポートにより評価します。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
掛谷誠・伊谷樹一（編）『アフリカ地域研究と農村開発』（京都大学学術出版会）ISBN: 9784876989898（アフリカ乾燥疎開林におけるフィールドワークにもとづく農村開発の実践活動を記録している。）

生態人類学Ⅰ(2)へ続く↓↓↓

大山修一(著)『砂漠化に挑む－ごみ活用による緑化と飢餓克服、紛争予防』（昭和堂）ISBN: 978481221436（サヘルの農耕民と牧畜民，在来技術による砂漠緑化の試みについて記している。）
高村泰雄・重田眞義（編）『アフリカ農業の諸問題』（京都大学学術出版会）ISBN:4876980543（アフリカ農業の可能性と課題について展望を得ることができる。）
重田眞義・伊谷樹一（編）『争わないための生業実践―生業資源と人びとの関わり』（京都大学学術出版会）ISBN:9784814000081（アフリカ各地の農村における生態資源と生業の変化、および人々の共存の様態を描く。）
日本生態学会（編）『生態学と社会科学の接点』（共立出版）ISBN:9784320057425
Brandon K 『Ecosystem Services from Tropical Forests: Review of Current Science. 』（Center for Global Development Working Paper No. 380, Washington DC.）（https://ssrn.com/abstract=2622749）
伊谷樹一（編）『つくる・つかう (生態人類学は挑む SESSION 4) 』（京都大学学術出版会）ISBN: 9784814004416

（関連ＵＲＬ）

http://jambo.africa.kyoto-u.ac.jp/africa_division/

[授業外学修（予習・復習）等]

講義を聴いて興味を持った事項について，図書，論文，インターネットなどでみずから調べること。関連する図書や論文などの情報については講義中に適宜指示する。

[その他（オフィスアワー等）]

人類学，生態学，農学，環境科学、開発，フィールドワークなどに関心をもっている学生諸君を対象とする。人類と環境との関わりについて深く考えようとする学生の受講を希望する。スライドやビデオを活用する予定。

[主要授業科目（学部・学科名）]